■鹿島テクニカルセンター合同研修会アンケート　　2026 年 9 月 18 日

社名	株式会社　河村建設	氏名	五十嵐　滉恭	経験年数	5 年目

□S 造・階段エリア

鉄骨造や免震装置が付く建物の図面業務に携わる機会が少なく、実物を見ながら説明を聞くことができたのでとても勉強になりました。
鉄骨階段と仕上壁のクリアランスについては、普段の業務でも注意する事ができる項目のため
注意して図面を見てみたいと思います。
特に免震装置の実物は街中で見ることのできない物なので、とてもいい経験になりました。

□RC 造・EV エリア

主に RC 造の配筋の様子や、EV ピットや実際に動く様子を見ることができました。
配筋の納まりは現場見学させていただく機会でもなかなか見ることができない箇所のため、
実物を見ることができ、とても勉強になりました。

□外装・屋上エリア

サンドイッチパネルや ALC、ECP パネルとサッシの切断面はこういった機会でなければ
見ることができないのでとても良い経験になりました。
また、P コン割、誘発目地割が意匠的に重要なことを知ることができました。
今後図面に携わる際はどう割付すればきれいに見えるかも含めて考えたいです。

□内装エリア

区画壁が成立していることの重要性を今一度確認することができました。
また、乾式壁の誘発目地については異種壁納まりの際に必要なことは知っていましたが
説明を受けるまで、長い壁にも入れなければならないことを知りませんでした。
SD と間仕切壁や天井納まりについても今までカタログでしたか見たことがなかったので
実際にどう組まれているか知ることができてとても勉強になりました。

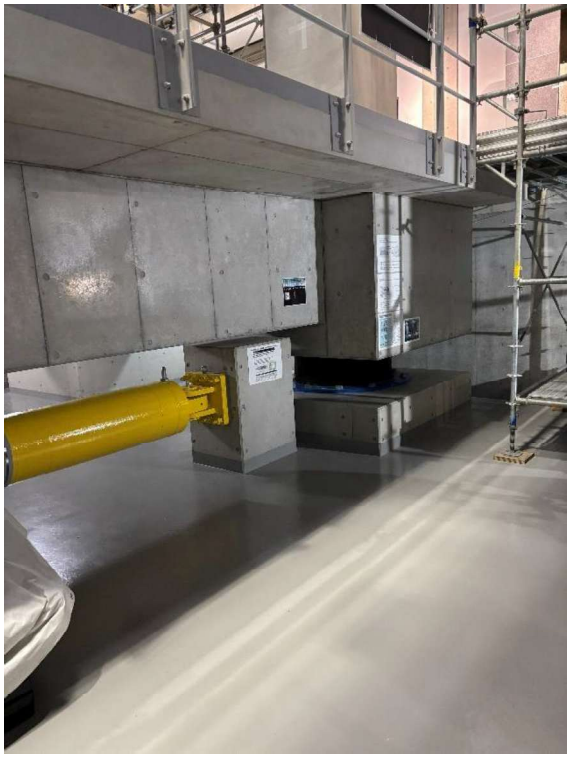
□全体

建物全体が中途半端に造られていることやモックアップが至る所にあり
完成後の現場見学では見ることができないような
鉄筋や鉄骨、下地、ものの切断面を見ることができたので、それらが実際どう取り付いているのか
何に注意しないといけないか知ることができました。
また、業務経験年数が近い方々と共にすることができたので知識の量や説明を受ける姿勢など
いろいろ考えさせられ、いい刺激になりました。

□その他感想や要望等自由記入

実物を見ることは大変勉強になりましたが
あわよくば建物の施工図を見ながら見て回れると良いと思いました。

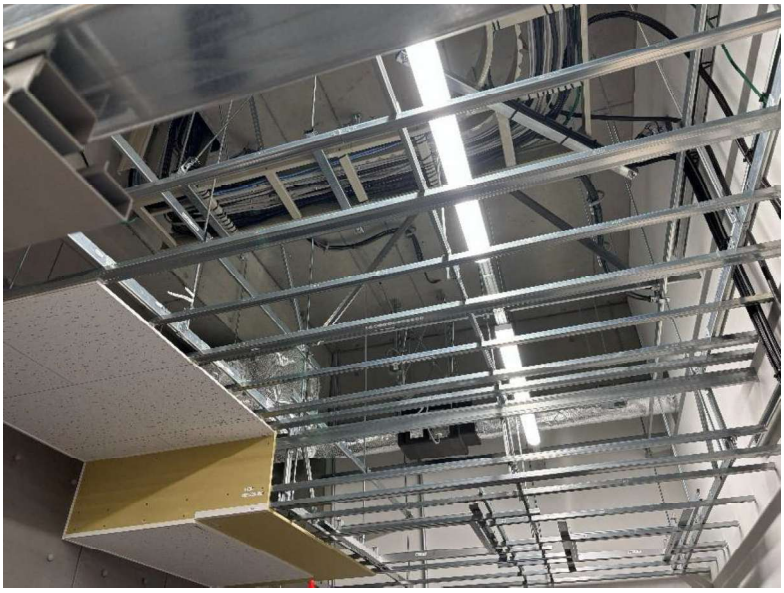
■写真（コメント等自由記載）











■鹿島テクニカルセンター合同研修会アンケート　　2026 年 9 月 18 日

社名	株式会社河村建設	氏名	宗像 光仁	経験年数	13 年

□S 造・階段エリア

鉄骨部材、デッキ、ブレース、階段などの実物を確認でき、図面上で扱っている部材が現地ではどのように組み合わされ、施工されているのかを具体的に理解することができました。特に、柱・梁接合部のボルト接合やスプライスプレート、デッキの納まり、設備貫通孔、ブレースとの取り合いなどは、実物を見ることで図面上の線の意味をより明確にイメージできました。鉄骨造は工場製作の段階で決まる内容が多く、現場での変更が容易ではないため、施工図段階で設備・仕上げを含めた取り合いを早期に確認し、必要な開口や下地等を先行して決めることの重要性を改めて感じました。

□RC 造・EV エリア

RC 躯体の配筋、スリーブ・開口、柱脚部、免震装置などを実際に確認することで、図面だけでは把握しにくい各部の構成や施工上の注意点を理解することができました。特に、配筋が密集する部分では設備スリーブや埋込金物等との取り合いを事前に調整しておく必要があり、後施工では対応が難しくなることを実感しました。また免震部分では、地震時の建物の動きを想定したクリアランスの確保や、仕上げ・設備配管等がその動きを妨げない納まりとする必要があり、施工図では寸法だけでなく構造上の役割や施工順序まで理解して検討することが重要だと再認識しました。

□外装・屋上エリア

ALC、ECP、サンドイッチパネルなどの外装材を実物で確認し、それぞれの材料特性、取付方法、防水・排水の考え方について理解を深めることができました。特に、ALC・ECP は開口位置や目地、下地金物の位置が割付や耐久性に影響するため、事前に調整する必要があることの大切さを再認識しました。屋上では防水の立上り、トップライト周囲、手すり等の取付部、排水勾配やルーフドレンへの水の流れを実際に確認でき、設計図の勾配表示をそのまま図面化するのではなく、水が滞留しないよう実際の納まりを考えてレベル設定することの重要性がよく分かりました。

□内装エリア

LGS、ボード、建具枠、目地、天井開口補強、断熱材など、普段施工図で扱っている内容を実物で確認することができ、各納まりがなぜその形になっているのかまで理解を深めることができました。特に、建具枠の固定方法には溶接だけでなく火を使わない固定方法もあること、長い壁や建具周りに目地を設ける理由、天井開口部では下地を切断した箇所に補強が必要になることなど実物を拝見させていただきとても良い機会でした。また、仕上げ材の見切りや壁際の納まりも、単に意匠上の線ではなく施工性や仕上がりを整えるための役割があることを確認でき、材料の特性と施工手順を理解して図面を作成する必要性を改めて感じました。

□全体

今回の研修では、普段施工図上で扱っている各部材や納まりを、構造・外装・内装から屋上まで実物で確認しながら説明を受けることができ、図面と施工とのつながりをより具体的に理解することができました。特に、図面上では一つの線や記号として表現される内容が、現場では材料の特性、施工順序、他工種との取り合い、将来の動きや排水まで考慮して成立していることを再認識しました。名称を覚えるだけでなく「なぜこの納まりになるのか」を現物と合わせて確認できたことが非常に参考になりました。今後の業務でも、今回確認した実物のイメージを持ちながら、現場で施工可能かという視点をより意識して図面作成や納まり検討に活かしていきたいと思います。

□その他感想や要望等自由記入

今回のように、図面上で扱う内容を実物と照らし合わせながら学べる研修は、若手社員が施工や納まりのイメージを身につける上で非常に有効だと感じました。日常業務では完成後の状態や図面上の情報だけを見ることも多いため、構造体、下地、仕上げ前の状態まで一連の流れを確認できる機会は貴重だと思います。今後も、若手社員を中心に、実務に直結する内容を現物と合わせて学べる研修を継続していただけると良いと思います。

■写真（コメント等自由記載）



外装：ECP の中空断面・開口部周辺の納まり



屋上：排水を考慮した勾配・目地の計画



内装：下り天井



RC 造：壁スリーブ



RC 造：梁緊張端



S 造：コン止め

■鹿島テクニカルセンター合同研修会アンケート　　2026 年 9 月 18 日

社名		氏名	円谷　和央	経験年数	20 年

□S 造・階段エリア

S 造の案件にたずさわる事が少なく、また、施工中に現場にて見学させていただくことも少ないので、名称や用途など再度確認できました。

自分も社内では若手を教える立場としてとても参考になりましたし、知らない事もたくありましたので、とてもよかったです。

□RC 造・EV エリア

配筋納まりや、型枠、PC 等、モックアップが素晴らしく、また、大事なところをピンポイントで説明いただけたのが良かったです。

□外装・屋上エリア

外装廻りについても、サンドイッチパネルや ALC、ECP の納め方等、また、外部でのシンダーコンの目地割、ファインフロア、ルーバー等を短時間で見せてもらい、制作物納まり方や目地割の意味など解説して頂けたのが良かったです。

□内装エリア

平面詳細図はよく見る図面ですが、システム天井は経験がなく、割り方やインサートについても詳しく教えていただきました。

□全体

今回の合同研修会は経験年数 5 年程度という事でしたが、建築生産設計協力会に参加させていただき初めての研修会でしたので、恥ずかしながら若手と一緒に参加させて頂きました。

弊社は RC のマンション施工図が多く、鉄骨や PC の施工図はあまり経験がないので、講師の皆さまにとても丁寧にまた、親切に御教示頂きとても有意義な研修会となりました。お忙しい中、準備等含めありがとうございました。

弊社にもまだ 2 年生 3 年生 4 年生がおりますので、ぜひ次回の研修会にも参加させて頂きたいと思います。

□その他感想や要望等自由記入